

Title	数量を表す語句に接続するガ・ケドの用法
Author(s)	齊藤, 美穂
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 2007, 41, p. 1-16
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/11928">https://hdl.handle.net/11094/11928</a>
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 数量を表す語句に接続するガ・ケドの用法

齊 藤 美 穂

### 1. はじめに

ほとんど徹夜で課題に取り組んでいたという日本語初級レベルの留学生に、「大丈夫ですか。」と声をかけたら、「大丈夫です。さっき 30分しか寝ませんでした。」という答えが返ってきて、戸惑ったことがある。

仁田 (1997) によれば、とりたて助辞シカは、数量名詞につくと、「少量」の評価を与えるとされる。確かに30分は睡眠時間としては短い、「大丈夫です」という発話に続けて、この表現を用いるのは文脈上不自然である。この場合、次のような答えが適切ではないだろうか。

(a) 大丈夫です。さっき 30分ですが / 30分ですけど寝ました。

しかし、ガ・ケド<sup>1)</sup>を既に学んでいる日本語学習者であっても、このような使用は思いつかないかもしれない。

ガ・ケドには、接続助辞として「逆接」関係を表す以外に様々な用法があることが既に多くの論考で指摘されている (永野 1951、森田 1980 など)。

日本語教育の場でも、初級段階でまず (b) のような「逆接」、次に (c) のような「前置き」<sup>2)</sup>の用法が導入される。<sup>3)</sup>さらに、中級へと進むと、「主題を表す表現」の一つとして、「(のこと) だが」「(のこと) んですけど」といった形で (d) のような例が紹介される。(例文 (b) (c) は、初級用教材「みんなの日本語」、(d) は中級用教材「新日本語の中級」<sup>4)</sup>より。

文末の括弧内に、扱われている課を示す)

(b) サントスさん、お仕事はとうですか。

そうですね。忙しいですが、おもしろいです。(8課)

(c) ・すみませんが、この漢字の読み方を教えてください。(14課)

・資料がほしいんですが、おくっていただけませんか。(26課)

(d) さて、冬休みのことですが、あいにく年末から友達とスキーに行く計画を立ててしまいました。(5課)

(a) の「30分ですが / 30分ですけど寝ました」におけるガ・ケドは、複文ではなく単文（あるいは1つの節）の中で、修飾語となる数量を表す語に接続している。ガ・ケドが複文を構成する接続助辞として機能していないという点では、(d) と共通するが、「30分ですが / 30分ですけど」は、「主題」を表してはいるのではない。この種の例について取り立てて扱っている教材は、管見の限り見当たらない。これは、(b) のような「逆接」用法に準ずるものであるとみなされているためと考えられる。ただし、(a) には、(b) のような複文らしいものには見られない制約が生じている。本稿では、数量を表す語句にガ・ケドが接続した例を取り上げ、(a) のようなタイプに見られる特徴を明らかにする。

## 2. 数量を表す語句

分析に入る前に、本稿で扱う数量を表す語句について確認しておく。

数量を表す語句の一つとして、まず、数量名詞が挙げられる。数量名詞は、「ものやことがらの数量の側面を抽象してさししめす名詞」である（鈴木1972：pp.199～120）。

鈴木（1972）は、数量名詞の下位分類として次のものを挙げている。5)

- (i) 数を一般にさししめすもの (一、二、三…)
- (ii) 具体物の数量 (分離量) をさししめすもの (一つ、二つ…、一こ、二こ…)
- (iii) ことがら、できごとのくりかえしの数をさししめすもの (一回、二回…)
- (iv) 連続量をさししめすもの (一メートル、二メートル…)
- (v) わりあいさをさししめすもの (一割、二割…、一パーセント、二パーセント…)
- (vi) ものごとの順序をさししめすもの (順序名詞: 一つめ、二つめ…、一番、二番…)

数量を表す語句にはほかに、具体的な数は示さないものの、量の多少を表す表現として、「たくさん」「少し」のような副詞 (頻度を表す「よく」「たまに」なども含む) や、「少ない」「多い」のような形容詞もある。また、「少しの間」のような、副詞と名詞との組み合わせ等もこれらに準ずるものと見なせる。

本稿では、これらの数量を表す語句にガ・ケドが接続した例を対象に分析を行う。なお、これらの中には数量だけではなく、程度をも表すものもあるが、本稿では基本的に数量を表すものを中心に扱う。6)

### 3. 数量を表す語句の現れ方による2つのタイプ

#### 3.1 数量の示される対象

現代日本語で書かれた小説 60 冊から、数量を表す語句にガ・ケドが接続した例を取集したところ、会話文・地の文を問わず、その現れ方に2つのタイプが見られた。仮に、数量を表す語句にガ・ケドが接続した部分を「x だが」で表し、ごく簡略化して示すと、次のようになる。(N は名詞相当の語句、C は節を表す。N につく助辞は「は」で代表させている。なお、

タイプ2では、「x だが」以外の部分全体をCとみなす。

タイプ1：Nは x だが、C。 寝たのは30分だが、満足した。

〈Nの数量〉

タイプ2：x だが、C。 30分だが寝た。

〈Cの数量〉

「x だが」が表すのは、タイプ1ではN、タイプ2ではCの量的な側面となる。1. で取り上げた(a)のような例は、タイプ2となる。

以下、本稿では、タイプ1と比較しつつ、タイプ2に焦点を当てて、その特徴を記していく。なお、用例を挙げる際には、「x だが」に相当する部分には棒線、「x だが」によって数量が示される対象となる部分に波線を施して示す。また、用例末尾の括弧内に、その出典名を簡略化して示す。出典の詳細については稿末のリストを参照されたい。紙幅の都合により、原文の改行箇所はスラッシュ「/」で示す。

### 3.1.1 タイプ1

タイプ1では、「x だが」が、先行部分（あるいは先行文脈）で示される対象（N）の量を示す。Nと「x だが」が、基本的に主語-述語の関係となっている。ここでのガ・ケドは、「Nはx だが」と後続する節C（ここではCに点線を施して示す）を一つの複文へと結びつけ、その意味関係を表す接続助辞として機能していると言える。

- 1) 封筒の中にはブルーの便箋が二枚入っていた。拝啓、という書き出しで、自分が現在仕事の関係でオーストラリアに來ているという内容を綴ってあった。それ以外には何も書いていない。彼女から手紙がくるのは年に一、二度だが、いつもこうだ。そして締めくくりも決まっている。

(後略) (眠り 25)

- 2) お茶だけだから、お盆を持ちながら片手でノック出来た。中に入ると、天城さんと向かい合って写真でおなじみの田崎先生がいた。和服の写真が多いが、今日は洒落た背広姿、銀髪によく似合ってダンディーである。八十という年齢が嘘のようだ。(六の 40)
- 3) 「叔父は、二十年ぐらい前から、わたしの家をぶいと出て行ってはどこともなく放浪して、半年ぐらいするとひょっこり戻ってくる癖がつきましてね。はじめのうちはそれが二カ月三カ月ぐらいでしたが、だんだんと放浪の期間が長くなって、半年となり、それ以上になるようになりました」(天才 207)
- 4) 妙子は目だけを斜め下に向け、瞬きしてから再び彼を見た。「あんなふうになったのは今日が初めてだけれど、積古の時に突然立ち尽くすということが、二度ほどあったわ。立ちくらみのようなものだって本人はいってたわね。でも、あたしの知るかぎりでは、彼女は無茶な減量なんかはしていないわ」(眠り 127)

### 3.1.2 タイプ2

タイプ2では、「xだが」が、節Cに示される対象やことがらの量を示す。この意味で、「xだが」は、単文内で修飾語として働いていると言え、ガ・ケドは本来の接続助辞としての役割は果たしていないことになる。

- 5) 「いまのままがいいです。友人には毎日少しだけ金を払うことにしました。二人の酒代に化けてしまいそうだけど」(霧の 250)
- 6) 「すごいさ。マリには分かる？僕は君のこと忘れたことなかったんだよ。マリが住んでたあのアパートの場所が思い出せなくて、日本に来る度必死に捜したんだ」／「私だって捜したわ」／「本当に？」／「太学

生の時、一カ月だけロスに語学留学させてもらったの。でもジョンっという名前しか分からなかったから、どうしようもなかった」(落花 135)

7) 「女性カメラマン」／と、麻美は、いたずらっぽく笑って、いった。／「嘘だな。僕は、ほんの少しだが、写真の世界を覗いたけど、君みたいな美人の女性カメラマンを見たことはないよ。」(寝台 20)

8) JBによれば、ごくたまにだけれど、わたしはチェロに夢中になるあまり、自分の弾いている曲に合わせてメロディを口ずさむことがあるそうだ。そういわれても、いったん意識してしまうと、簡単な鼻歌さえ歌うことができなかった。(後略) (青の 97)

このように、「xだが」が、文中で修飾語に相当する部分として機能していることが、3.2で見ると、現れる数量を表す語句の、タイプ1との違いに影響を与えていると考えられる。

### 3.2 数量を表す語句の種類

3.1 で見たタイプ1とタイプ2では、その構造だけでなく、「xだが」に現れる数量を表す語句の種類にも違いが見られる。

以下、タイプごとに、直接的に量の多少に言及するものと、それ自体は多少の違いには言及しない数量名詞に分けて示す。量の多少を表すものについては、もとの語彙的な意味にもとづいて、「多量系」と「少量系」に分けて示す。数量名詞でも、「ほんの」「たったの」などの量が少ないことを表す語句を伴うものは、少量系として扱う(※印を付して示す)。主なものを実際に現れた形で示す。語の種類だけでなく、形態にも注目されたい。

## 3.21 タイプ1の場合

タイプ1では、数量を表す語句として、次のようなものが見られた。

## 《量の多少を表すもの》

## ア) 多量系

多いが (多いのだが / 多かったが / 多くはないが…), 莫大なのですが、ほとんどだけど (殆どだったが)、長い間だったようですが

## イ) 少量系

少ないが (少ないのだけど / 少ないはずだが / 少なかったが…), 短いけれど (短かったけど)、短い間だったけど

※ほんの一瞬だったけれど、たったの一個だけだったのだが、ほんのひとかけらのものなのだが…

## 《数量名詞 (単独)》

二カ月三カ月ぐらいでしたが、十五分くらいだったと思いますが、数秒のことなのかもしれないが、三年近いが、ひとりだが、二人だったが、お二人だけでしたが、十二万ですが、五百万円程度のものですが、七・七マイルだが、二十二回かもしれないけど、…

ここから、次のことが言える。

- ①ア) 多量系、イ) 少量系のいずれも現れる。
- ②「多い」「少ない」といった第一形容詞の終止形が現れる。

9) 「でもそのためには、その系列の教授が団結しなければなりませんね」  
 / 「教授というのは、個々には一癖も二癖もある、うるさいご仁が多いけれど、学園の問題になると意外に結束しますから」(脳は 262)

10) 橋のたもとに、花を売る露店があった。時期が時期だけに、花の種類



は少なかつたが、曇り空の下で、そこだけ目に沁みる色彩が浮き出ている。だが逆に麻沙子には、黒ずんだ空や橋や建物よりも、その浮き出ている花の色のほうが暗く感じられた。(後略) (ドナ 134)

数量を表す語句は、肯定形で現れるのが基本的なようであるが、次のように「xだが」が否定形をとることもある。

- 11) 一日バイトをして一人が五円以上の収益をもらった。(※執筆者注：その収益は収入としてはそう多くはないが映画館の入場料が一円で単行本が二、三円ぐらいの時代だったから学生アルバイトとしては悪くはない。(ファー 37)

タイプ1の場合、「xだが」には、多量系も、少量系も現われ、大きな偏りはない。これは、3.2.2で見るタイプ2とは異なる点である。

### 3.2.2 タイプ2の場合

タイプ2の場合、数量を表す語句として、「xだが」に次のようなものが現れる。

#### 〈量の多少を表すもの〉

##### ア) 多量系

頻繁ではないけれど(頻繁にというわけではありませんが)、全部ではないが、毎日ではありませんが、

##### イ) 少量系

少しだけれど、わずかだが、微量だが、少ない金額だったけれど、少しの間ですが、短期だったけれど、短い期間ではあったが、一瞬

だが、たまにだが、少しずつだが、ほんの少しだけど、ごく稀ではあるが、ごくたまにだが、…

※たったの一種類ではあったが、ほんの四、五メートルほどだが、ほんの数行だが…

### 〈数量名詞（単独）〉

一、二分だったが、一カ月だったけど、三カ月ぐらいだったけど、三十分だけど、一年間だけだったけど、ひとりだけだけど、一度だけだが…

ここから、次の特徴が指摘できる。

- ①イ) 少量系の語句が多く見られる。この場合、肯定形で現れる。
- ②ア) 多量系の語句は相対的に少なく、否定形で現れる。
- ③ (特に第一) 形容詞は終止形では基本的に現れない。<sup>7)</sup>

③は、タイプ2における「xだが」が、節内で述語としてではなく、修飾語として機能しているためと考えられる。

①②に示した偏り及び形態上の制約は、タイプ1にはなかったものである。「xだが」の位置に、少量系の語句が肯定の形で現れるのがタイプ2の特徴であると言える。

12) 改めて鏡で見ると、ズボンにも少しだが血がついていた。／手の血も、完全には洗いきれてはいない。新井は風呂に入り、石鹸で、何度も身体を洗った。(寝台111)

13) 検査の結果は来週出ると女医さんは言っていた。その間に、ほんの少しだけれど財産もあるから遺言を書こうと思った。訳が分からなくなってしまう前に自殺しようとして簡単に決心がついて、私は何だか笑ってし

まった。(後略) (落花 218)

14) (前略) 一方、吉川の妹のふじ子のことも決して忘れてはいない。時々訪ねて行っては、ほんの五、六分だが話し合ってくる。きょうは暑いとか寒いとか、体の具合はどうだとか、不器用な信夫は、いつもきまりきった言葉で見舞ってくるのだが、いつ行ってもふじ子は明るかった。(後略) (塩狩 240)

15) 「父親はそんな嘘をつく人ではなかったので、間違いなくそういう絵は実在したはずです。父は一度だけだが、確かに当時の稲木さんの家でそういう絵を見たり、それまでのスランプを破った本当なら稲木の出世作になる絵だったと言っていましたね」(花塵 124)

多量系の語句の例は少ないが、現れたものは全て否定形である。多量系の語句が否定形で現れることで、「xだが」の示す量は、少量とは言えないまでも、不十分な量を表すものと言える。ただし、この種の例は、ガケドの介在なしに、xが修飾語として現れえない(16' \*「全部ではなく、～ある事実に触れている」)点で、上で見てきた少量系の肯定形のものとは異なる。また、用例17)のように、「xだが」の直後に、数量を表す他の語句が修飾語として現れることもある。

16) しかし、どこかで彼の言うことに一理あるのだという思いも、否定できない。全部ではないが、僕の言うことはある事実に触れていると、昧子は認めざるを得ない。そのためにもますます苛立ちがつのるのであった。(砂の 384)

17) 「毎日、画を描いていらっしゃるんですか?」 / 「毎日ではありませんが、よく画を描いておられるようですよ」 / それだと相当に画が溜まっているかもしれないと思った。(天才 23)

#### 4. 分析結果のまとめと考察

以下、これまで分析してきた結果をまとめ、考察を加える。

##### 4.1 分析結果のまとめ

本稿では、数量を表す語句にガ・ケドが接続する例を対象に用例を収集し、分析を行った。まず数量を表す語句「xだが」によって量的な側面が示される対象の現れ方の違いから、2つのタイプに分け、それぞれ「タイプ1」、「タイプ2」とした(31)。

タイプ1：Nは xだが、C。 寝たのは30分だったが、満足した。  
〈Nの数量〉

「xだが」はNの数量を表し、Nとは主語-述語の関係となる。

タイプ2：xだが、C。 30分だが寝た。  
〈Cの数量〉

「xだが」はCに述べられる対象やことがらの数量を表し、Cに対して修飾語として働く。

そして、タイプごとに「xだが」に現れる数量を表す語句を見たところ、タイプ1に対し、タイプ2には偏りがあることが確認できた(32)。

タイプ1：多量を表すものも、少量を表すものも現れる。

タイプ2：基本的に少量(あるいは不十分な量)を表すものとなる。

#### 4.2 タイプ2に生じる制約の要因

タイプ2における、数量を表す語句の偏りは、ガ・ケドが「逆接」関係を表す機能を持っていること、及び「xだが」が、Cに対して修飾語として機能することと関係していると考えられる。

タイプ2においては、「xだが」に、多量を表す語句が肯定の形で現れることはない。（「\*もらったお金をほとんどだけ貯金した。」）

少量というのは、多量に対して、より「ゼロ」に近いことを表し、文に述べられる出来事の成立の量的な側面に対して、否定的な評価を与えるものと言える。

今回収集した用例では、タイプ2におけるCの述語の形は、すべて肯定の形であった。工藤（1983）は程度副詞に関する論考であるが、その中で、程度副詞は一般に否定形式とともに用いることは通常ないことが述べられている。工藤（1983）では、程度副詞は数量を表すものとは区別されているが<sup>8</sup>、「少し」「たくさん」のような一部の程度副詞は量の用法をも持つことが指摘されている。これらについては、ガ・ケドの使用にかかわらず、基本的に肯定形式とともに用いられると言えよう。

数量名詞の場合にも同様の傾向はありそうだが、「情報を遮断するため、1週間テレビを見なかった」のように、否定形式との共起も可能であろう。しかし、ガ・ケドを伴っている場合には、否定形式とともに現れない。

ここから、xが少量（あるいは不十分な量）を表し、Cが出来事の成立を肯定的に述べるものである場合のみ、ガ・ケドが介在しうると考えられる。タイプ2におけるガ・ケドは、接続助辞とは言えないものの、やはり「(広義の)逆接」を表す性質を残しており、そのため、数量的な側面に対し否定的な評価を与えつつ、出来事の成立を肯定するという、相反する態度が話し手の中にある時に用いられるのである。それ自体は必ずしも量の多少について言及するものではない数量名詞であっても、ガ・ケドが

介在することによって、そこに示される数量を、話し手が少量（あるいは不十分）であると考えていることが示されることになる。

以上、今回集めたデータから確認できたことを述べたが、今後さらに大量のデータを集め、検証することが必要である。また、今回、平叙文、質問文といった文のタイプについての制約については確認できなかった。この点も、今後の課題としたい。

## 5. おわりに

最後に、本稿の冒頭で述べた出来事と関連して、数量に関するとりたて表現との関係について触れておく。

先に述べたように、とりたて助辞シカは、数量名詞に「少量」の〈評価〉を与えるものとされる（仁田1997）。

本稿では、タイプ2ではガ・ケドの介在により、話し手が「xだが」で示される量を少量（あるいは不十分である）とみなしていることが示されると述べた。この場合のガ・ケドと、「少量」の評価を与える表現とされる「シカ」の違いは何であろうか。

ガ・ケドの場合、その使用によって量的な側面への否定的な評価が表されると同時に、出来事の成立に対する肯定的な態度が示される。つまり、出来事の成立そのものは肯定的に述べられているのである。実際の用例でも、後に続く文の内容（点線を施して示す）からそのことが確認できる。

18) 「(前略) 太森ちささんは前に、ほんの二日三日だったけど、ビラージュでパートタイマーをやっていたから知っているのね、中の構造とかを」  
(Vの286)

19) 「むくんでいるんでしょう」／ミサ子は突っ放すように言ってから、  
／「でもこの病院はよかったんだよ」／と囁いた。／「ほんの少しだけ

ど、窓から海が見えるの。海が見える窓の傍で暮らせるなんて、ぜいたくだ、ってひどく喜んでたのよ」(陸影 283)

該当箇所を「シカ」を用いて言い換えると、文脈上不自然となる。

18') \* 「(前略) 太森ちささんは前に、ほんの二日三日しか、ピラーージュでパートタイマーをやっていたから知っているのね、中の構造とかを」(Vの286)

19') \* 「ほんの少ししか、窓から海が見えないの。海が見える窓の傍で暮らせるなんて、ぜいたくだ、ってひどく喜んでたのよ」(陸影 283)

数量を表す語句につく場合、ガ・ケドととりたて助辞シカは、その数量を少量であると評価していることが表される点では共通しつつ、出来事の成立そのものを、肯定的に述べるか否定的に述べるかという点で対立していると言える。1. で取り上げたような不自然な使用を避けるためには、このような対立を示しつつ、文脈を視野に入れた指導を行うことが有効であろう。

#### 注

1) 「けれど」は「けれど」などと同様に、「けれども」の音声的なバリエントである。これらを一括して「ケド」で表す。ガには、ケドにはない以下のような用法があるが、これらの用法はひとまず考察の対象から外し、本稿ではガ・ケドを基本的に同じ意味・機能をもった助辞として扱う。

① 逆条件節となるもの：「(前略) しかし、そのあと、私がどこへ行くのが私の自由です」(ドナ 186)

② 終助辞的なもの(「～ダロウ／～デショウ+ガ。」)：「前に、母さんだって言ってたでしょうが。ほかの誰よりも、雅雄に関係のあることなんですよって。

(後略)」(今夜 146)

- 2) 『新版日本語教育事典』では、「ガ・ケド」の項にこの2つを挙げている。なお、「前置き」については、後件の内容がその文で述べたい(尋ねたい)本題であり、前件がそれを切り出すための前置きとなっているものとされている。
- 3) 『みんなの日本語』では、8課以外のガについて文法的な説明はない。
- 4) 『新日本語の中级』は、『みんなの日本語』の前身ともいえる『新日本語の基礎』を終えた中级レベルの日本語学習者を対象とした教科書である。同書では、この「主題」を表すような用法は特に新出学習項目として取り上げられてはいないが、5課に「(名詞句)ですが」のパターンが現れ、練習問題も設けられている。なお、『新版日本語教育事典』では、「主題・とりたて」の項で、「主題」について、「その文が何について述べるかを示すもの」であるとしている。
- 5) 数量名詞のうち、順序名詞については、はだか格で修飾語になり、主体や対象の量を規定することができないという点で、一般の数量名詞とは異なることが指摘されている(鈴木1972参照)。しかし、今回収集した用例では、基本的にこの種の名詞は、本文中に挙げた用例4)のように、タイプ1の形で述語として現れており、後続する節Cに現れる数量を表す表現と対比的に用いられていた。このため、数量名詞としては特殊であるものの、分析の対象としている。
- 6) 鈴木(1972)では、副詞の中に「量=程度副詞」という「量」と「程度」を一つにまとめた下位カテゴリーを認めている。一方、工藤浩(2000)では、「程度副詞」について、「<量>を表わす状態副詞や名詞とまぎれやすい」としつつ、「形容詞・形容動詞を修飾する用法をもたない点で、程度副詞と区別される」としている。また、程度副詞の中には、程度用法だけでなく、量の用法を持つものが少なからずあり、「両用法・両語群の親近性・隣接性は否めないが、量の用法は、状態性をもたない動詞と共起する点で、結びつく語の分布が程度の用法と異なっており、両者は区別されるべきである」と述べている。
- 7) タイプ2と見られる例で、第一形容詞が終止形で現れている例も2例あった。ただし、ガ・ケドの介在なしにこの形容詞を修飾語として副詞的に用いる(「少なくホームには人の姿がある」)のは不自然である。現段階ではこの種の例については分析を保留しておく。
  - ・列車が、森岡駅に着いたのである。午前七時丁度である。少ないが、ホームには人の姿がある。(寝台30)



8) 注6) を参照されたい。

【用例出典】(本文中で用例を引用したもののみを示す)

阿刀田高(1989)『Vの悲劇』講談社文庫版(1992)、遠藤周作(1988)『ファースト・レディ(上)』新潮文庫版(1992)、北村薫(1992)『六の宮の姫君』創元推理文庫版(1999)、曾野綾子(2000)『陸影を見ず』文春文庫版(2004)、高橋のぶ子(1990)『霧の子午線』中公文庫版(1995)、西村京太郎(1988)『寝台特急「ゆうづる」の女』文春文庫版(1990)、松本清張(1979)『天才画の女』新潮文庫版(1982)、三浦綾子(1965)『塩狩峠』新潮文庫版(1973)、宮本輝(1985)『ドナウの旅人(上)』新潮文庫版(1988)、宮部みゆき(1998)『今夜は眠れない』角川文庫版(2002)、村山由佳(1995)『青のフェルマータ』集英社文庫版(2000)、森瑤子(1989)『砂の家』新潮文庫版(1991)、山本文緒(1999)『落花流水』集英社文庫版(2002)、連城三紀彦(1994)『花塵』講談社文庫版(1997)、渡辺淳一(1974)『脳は語らず』新潮文庫版(1991)

【参考文献】

- 工藤浩(1983)『程度副詞をめぐって』渡辺実編『副用語の研究』明治書院  
 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』むぎ書房  
 永野賢(1951)『現代語の助詞・助動詞』国立国語研究所報告書3 秀英出版  
 仁田義雄(1997)『日本語文法研究序説』くろしお出版  
 丹羽哲也(1999)『対立的な並列を表す接続助詞「が」』『大阪市立大学文学部創立五十周年記念国語国文学論集』和泉書院  
 前田直子(1995)『ケレドモ・ガとノニとテモ』『日本語類義語表現の文法(下) 複文・連文編』くろしお出版  
 南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店  
 森田良行(1980)『基礎日本語2 —意味と使い方—』角川書店  
 [日本語教材・事典]  
 海外技術者研修協会 編著(2000)『新日本語の中級』スリーエーネットワーク  
 スリーエーネットワーク編(1998)『みんなの日本語初級I・II』スリーエーネットワーク  
 日本語教育学会編(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店  
 (大学院博士後期課程学生)

## SUMMARY

## The Use of 'ga' and 'kedo' Connected to a Quantifier

Miho SAITO

While 'ga' and 'kedo' are usually used to show the relationship between two clauses, they can be used also in a simple sentence (or in one clause). In this paper, using the examples of 'ga' and 'kedo' which comes after a quantifier in a simple sentence, the following things will be discussed.

Such a case has some constraints which are not found in complex/compound sentences. A quantifier phrase followed by 'ga' or 'kedo' reflects small quantity. It is assumed that, 'ga' and 'kedo' are used in describing the event when a speaker takes a negative attitude toward its quantity. With the use of 'ga' or 'kedo', the speaker shows the negative attitude. And at the same time, it is shown that the speaker affirms the occurrence of the described event. This is a distinctive feature when compared with the sentence using a toritate form, 'shika' which describes the event and the quantity both in a negative way.

キーワード：ガ・ケド，数量を表す語句，少量，否定的な評価，逆接